全職場からの安全総点検を！
労働組合のチェック機能を発揮しよう！

NRU
国労中国
２０２６年
１０月３日
第８号
発責　倉下文明
編集　教宣部

　このところ中国統括本部内にて、「あわや」という事象が相次いで発生しています。３月３１日の備中神代駅での列車早着・６月１０日の新山口駅で停電区間に電車が侵入・７月２６日の新見駅での保持帯施行中の車両の入換など、いずれも人命に係る重大事故に繋がっていてもおかしくない事象であると言えます。

　これらの事象を受けて中国地方本部として、会社に対して申し入れを行い、対策の説明を求め組合としての意見表明なども行ってきました。一方、事故発生を受けての会社の対応を見たときに、とても迅速とはいえない有様でもあり、伯備線事故の教訓がどれだけ社内にて共通の認識として自覚をされているのか、とても懸念されるところでもあります。

リアルな職場は！

　労働力人口が減少する中、持続可能な体制を目指すとして各会社・各系統にて効率化施策が進められてきましたが、その中で、私たちの働く職場はどうなっているのでしょうか。

　中国地本・各地区本部大会では、次のように報告されています。

「ドア閉め時、ホームに降りて確認しろと言われるが、本当に安全なのか。特急のワンマン運転は見直すべき」「転落労災やパワハラ事象が起きているが、申告しづらい環境にある」（G会社）「中国統括本部が出来て４年、業務量が増え、取り扱いも複雑に。疲れもひどくなりいつまで働けるのかと思う」「職場の統廃合により、担当エリアが拡大、現場まで車で１時間、早朝から５時間ぶっ続けで仕事したりしている」「パワハラによるメンタルや低賃金で離職に追い込まれる人もいる」（貨物）「どこでも入換が出来るようにと、訓練のエリアが広範囲となり交通事故のリスクもある」「カーブのきついところでは、合図を出しても列車が止まれない。誰も疑問の声が出ない」「列車の接近を知らせる支援装置が廃止に。列車ダイヤで接近を見ているが、絶対に危ない」「地面に這いつくばってバスの床下を見ることを続けていたら靭帯損傷。募集をかけても応募がない」（バス）「超勤がすごい。若い人が離職しないか心配になる」「貨物職場は事故が多い。他職場では入換中に足を切断。ユニットの編成を変えたりしているが、人手がいる。募集しても人を集まらない」（ロジ）「昼間は暑くて作業にならない。大単位化で足ロスが大きい。１６時頃事務所に帰り昼ご飯を食べたりしている」などです。

　こうした現状を受け、中国地方本部として１０月中を安全総点検運動の強化期間と位置づけ職場点検と要求集約の指示を出しています。

　各級機関での取り組みを要請します。

頂いた声を無駄にはしません！

　芸備線備中神代と備後庄原駅間を対象とした「再構築協議会」が、鉄道での存続かバス転換の結論を出すといわれる３年目を迎えています。中国地方本部として中国運輸局をはじめ、庄原市・岡山県・広島県などの関係自治体を訪問しながら、ＪＲ西日本会社・中国運輸局・国への要望などについて、意見交換を行って来ました。

　これらの取り組みで頂いた意見・要望をこれからの芸備線の在り方に活かしていこうということで、９月１６日付で中国統括本部に対して申し入れを提出してきました。また、西日本本部を通じて、１１月１２日に予定されている本部の取り組む国交省要請にも盛り込んでいただくことにしています。頂いた声はしっかり活かします。

各地区本部が体制整備！！

広島地区本部大会

　９月１２日、１０時より広島会館にて、「第２回広島地区本部定期大会」が開催されました。佐々木委員長の挨拶ではじまり、質疑では「安全問題」「平和活動」「若年離職の問題」「バスの老朽化」「職場統廃合」など、様々な課題について意見が出されていました。



挨拶する広島地区本部佐々木委員長

岡山地区本部大会

　９月１２日、１３時より岡山リブレにて、「第２回岡山地区本部定期大会」が開催されました。小林委員長の挨拶、質疑では「車掌職の将来展望」「遠距離通勤と長時間勤務による離職が懸念される」「グランドシニアへの希望者の全員採用」「重大労災の発生と人材難」など報告されました。



挨拶する岡山地区本部小林委員長

米子地区本部大会

　９月２６日、米子市文化ホールにて「第２回米子地区本部大会」が開催されました。青柳委員長の挨拶に続き、質疑では「駅舎のスリム化」「安全問題」「遺失物管理の問題」「カスハラ対策について」「賃金アンケートの取り組み」「ローカル線問題について」など、報告されていました。


挨拶する米子地区本部青柳委員長